

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2011年 5 月 3 日

派遣者氏名（専門分野）	向 正 樹 （ 東 洋 史 ）
-------------	-----------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	10～20世紀初の中国東南沿海部～南シナ海地域における中国系ムスリム移民と文化変容—古写本学・碑銘学からのアプローチ—
-------	---

派遣期間

2011年 2月 24日 ～ 2011年 4月 24日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	フランス	パリ	パリ第四大学および L'ecole pratique des hautes études	Ludvik KALUS
	フランス	パリ	フランス国立科学研究センター (Archipel, EHESS)	Claude GUILLOT
	フランス	パリ	フランス国立図書館	なし

派遣先で実施した研究内容

○現地研究者との面会およびイスラーム石刻など考古学研究関連の情報収集：

3月1日午前、パリ第四大学にて、受入研究者である Ludvik Kalus 教授と面会し、14世紀前後の中国イスラーム碑文、および、15世紀以降の東南アジア・イスラーム碑文に関する相互の研究状況について情報交換した。あわせてパリ滞在中の研究や帰国後の連携についても話し合う。

3月2日、9日、16日、23日、30日、4月6日、Kalus 教授が L'école pratique des hautes études にて行う中央アジア出土のコインの銘文やイスラーム時代初期の刻文を解説する講義に出席、イスラーム碑銘学について学ぶとともに、情報交換を行う。イスラーム碑文については、Kalus 教授の講義聴講後、アラブ世界研究所（3月2日）、フランス国立ギメ美術館（3月4日）、フランス国家図書館リシュリュエ館（Département des Monnaies, médailles et antiques）所蔵のテュニジア・エジプト・ジャワなどのイスラーム碑文を実見。

3月6日、Kalus 教授宅を訪問。

3月9日、Kalus 教授の紹介で、東南アジア考古学を専門とする Claude Guillot 氏と面会、情報交換。

3月18日、Claude Guillot 氏の紹介により、フランス国立社会科学高等研究院（EHESS）Archipel の Paul Wormser 氏と面会し、情報交換。

3月21日、Claude Guillot 氏の紹介により、フランス国立科学研究センター（CNRS）／Archipel の Claudine Salmon 氏と面会し、情報交換。

○図書館での文献調査：

3月7日～、フランス国立図書館（リシュリュエ館）写本室にてアラビア語・ペルシャ語・古

裏面に続く

フランス語文献の写本の調査。以下の写本原本およびマイクロフィルムを閲覧。

Bibliothèque Nationale, Paris, Département des Manuscrits

- (1)Arabe 2325 (fol. 30b-94b): Ibn Fadl Allāh al-'Umarī, Masālik al-Absār fi Mamālik al-Amsār
- (2) Arabe 2287: Ibn Battūta, Tuhfat al-Nuzzār fi Gharā'ib al-Amsār wa 'Ajā'ib al-Asfār
- (3) Arabe 2288: ibid
- (4) Arabe 2289: ibid
- (5) Arabe 2290: ibid
- (6) Arabe 2291: ibid
- (7) Supplément persan 1113: Rashīd al-Dīn, Jāmi' al-Tawārīkh
- (8)Supplément persan 209: Rashīd al-Dīn, Jāmi' al-Tawārīkh
- (9)Français 1116: Marco Polo, Livre qui est appelé le Divisiment dou monde

4月15日、21日、同図書館写本部複製サービスにて上記(1)~(4), (6),(8),(9)の必要個所につきPDF化を依頼。

3月21日、30日、Bibliothèque de la Maison de l'Asie (22 avenue du Président Wilson)にて新刊雑誌など閲覧。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

申請時の計画にしたがい、上記研究テーマに関連して具体的には、(1)イスラーム石刻資料の分析と(2)文献資料の分析、を実施し、それぞれ次に述べるような成果があった。

(1) 石刻資料の分析...「当該分野の世界的拠点であるフランスでイスラーム碑銘学について幅広く学ぶ」という当初の目的については、Ludvik Kalus 教授との面会や講義の受講により、ほぼ達成できた。さらに同教授が30年にわたるデータ集積の成果であるイスラーム碑文のデジタル・アーカイブ *Trézor* を検索させてもらうことができた。本データベースは準備が順調に進めば、今年11月に公開され、オンラインで利用できるようになるという。これにより、当初予定していた「14世紀前後の中国イスラーム碑文、および、15世紀以降の東南アジア・イスラーム碑文の年代・タイプ別の書式・デザイン分類作業」はかなり楽になり、新たな発見もあったが、一方で研究環境が一変するため分析手法を再考する必要もでてきた。

(2) 文献史料の分析...「アラビア語地理文献・旅行記の豊富なコレクションを有するフランス国立図書館において写本調査を行い、重要な記載について正確な読みを確定する作業」について、写本調査自体は上述のようにほぼ目的を達成できた。読みの確定についても、当初の目標はほぼ達成できた。ただ、マイクロからのPDFデータでは不鮮明な箇所も多く、校訂テキスト作成も未完了のため、再度原本にたちかえり目視により確認する必要がある箇所も残されている。

派遣後の研究発表の予定

1. 7月7日~10日 世界史学会 WHA(World History Association)
会場・主催機関・開催地：中国・北京・首都師範大学 日程：2011年7月7日~10日(4日間)
で”Reconsidering Earlier Age of Commerce”と題するパネルをオーガナイズし、報告する。
2. 7月27日~29日 “大航海時代的澳門、廣東與東南亞”國際學術研討會
会場・主催機関：中国・マカオ・澳門大学・廣東省社會科學院廣東海洋史研究中心
で報告(未確定)。